

大豆作情報第3号

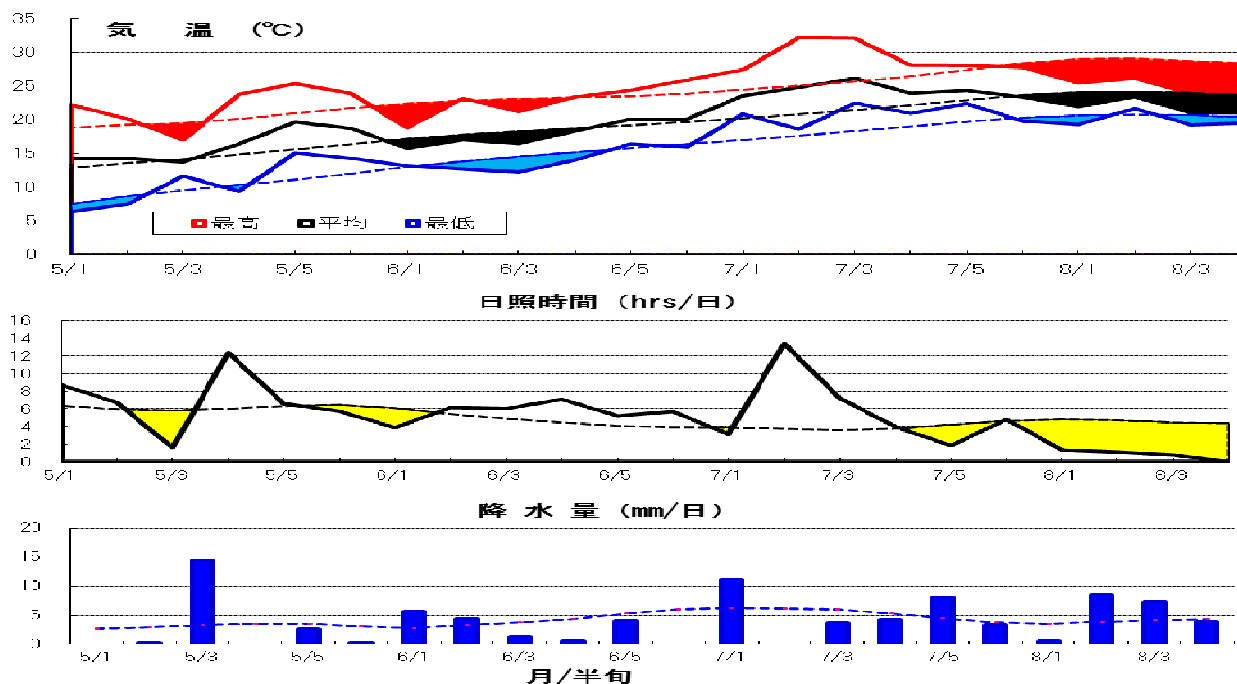
平成 29 年 8 月 21 日

JA全農みやぎ

～8月の寡照で生育は蔓化傾向、排水対策と開花期の病害虫防除の徹底～

1 気象経過

【古川アメダス】



- ・7月23日～8月中旬まで低温傾向で、特に最高気温が低く経過している。
- ・7月下旬から日照時間が極端に少なく、8月に入り記録的な寡照で経過している。
- ・8月に入り20日までの積算の日照時間は平年の17%程度となっている。

2 生育状況

【古川農業試験場内】

8月10日付け生育調査結果（8月9日調査、開花期は随時調査）

播種期	品種名		開花期 (月/日)	主茎長 (cm)	主茎節数 (節/本)	分枝数 (本/本)	総節数 (節/本)
標播 (5/24)	タンレイ	本年値	7/23	98	17.7	3.3	39.4
		前年差	2日早	+17	+2.2	-1.0	-1.3
		平年差	3日早	+14	+1.3	-0.7	-5.3
	あやこがね	本年値	7/25	114	19.3	3.5	44.7
		前年差	1日早	+24	+2.7	-0.5	+1.8
		平年差	2日早	+24	+1.7	+0.0	+0.7
	タチナガハ	本年値	7/26	114	18.8	4.4	45.8
		前年差	同日	+21	+1.6	-0.4	-3.3
		平年差	1日早	+23	+1.6	-0.2	-0.5
	ミヤギシロメ	本年値	7/31	127	18.8	3.8	50.2
		前年差	1日早	+15	+0.6	-0.2	+5.0
		平年差	2日早	+17	+0.4	-0.4	+2.5
晩播 (7/6)	タンレイ	本年値	8/14	59	9.8	0.4	11.4
		前年差	1日遅	+18	+1.0	-1.1	-1.9
		平年差	3日遅	+15	+0.6	-0.6	-0.9
	あやこがね	本年値	8/15	(45)	(8.7)	(0.9)	(11.4)
		前年差	1日遅	(+6)	(-1.1)	(-0.4)	(-2.0)
		平年差	3日遅	(+0)	(-0.9)	(+0.1)	(-0.8)

【標準播種（5月下旬）】

- ・主茎長は平年差+14～24cmとかなり長く、前回調査時より徒長が進んでいる。
- ・いずれの品種も、徒長に加えて台風の影響による倒伏もあり、分枝数及び総節数は平年並み～やや少ない。
- ・タンレイ以外の品種は全面的に蔓化倒伏しており、下位葉の黄化や枯れが著しい。

【晩播（7月6日播種）狭畦】

- ・標準同様、平年より主茎長はかなり長く、分枝数及び総節数はやや少ない。
- ・台風の影響により倒伏している。開花期は、寡照の影響により平年より3日遅い。

※県内の大豆の播種時期は、古試の標準より一般的に遅く、6月播種が多い傾向で、栽植密度も広い
ため、なびき倒伏の圃場や蔓化傾向にある。特にミナシメで傾向が強いようである。



蔓化傾向の大豆

3 今後の管理

（1）病虫害防除

- ・低温等で開花が長引いているが、雨の合間に紫斑病や害虫防除を1～2回実施する。
- ・ジャガイモヒゲナガアブラムシは、気温が低い場合に多くなるので注意する。
- ・吸実性カメムシは、着莢期と子実肥大中期に2回薬剤を散布する。
- ・マメシンクイガは、連作すると発生が多くなり、発生は8月第6半旬～9月第1半旬である。防除適期は成虫発生盛期からその10日後までである。



病虫害防除所 発生予察情報8号（前号同様）

病虫害名	発生量
紫斑病	やや少ない
ジャガイモナガヒゲアブラムシ	少ない
吸実性カメムシ	やや多い
マメシンクイガ	平年並み

（2）圃場の排水対策

- ・湿害による葉の黄化圃場では、秋の収穫時期に備え、天候の回復をまち明渠等の手直しを行うこと。
- ・長雨が続き停滞水があるが、確実に排水路に流れるよう再度連結すること。

【参考】今後 1ヶ月の気象予報

【1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率（％）】

【気 温】	東北太平洋側	20	50	30
【降 水 量】	東北太平洋側	20	40	40
【日照時間】	東北太平洋側	50	30	20

◆週別気温経過の各階級の確率（％）

1週目	東北太平洋側	50	30	20
2週目	東北太平洋側	20	40	40
3～4週目	東北地方	20	40	40

■ 低,少 ■ 並 ■ 高,多